

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度 第2回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和3年11月2日(火) 午後6時00分から 午後7時40分まで
開 催 場 所	吉川市役所第303・304会議室
出席委員(者)氏名	佐久間美穂委員、大澤里子委員、大月浩史委員、荒井一美委員、清水孝二委員、松澤良美委員、吉岡弘美委員、中村麻里委員
欠席委員(者)氏名	
担当課職員職氏名	こども福祉部子育て支援課長 桜井健一 こども福祉部障がい福祉課長 程田浩司 こども福祉部保育幼稚園課長 島村善和 こども福祉部子育て支援課 課長補佐兼子育て支援係長 飯野耕太郎 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係主任 中村雄貴 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係主事 今関夕貴
会議次第と会議の公開 又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 吉川市児童福祉審議会について 4 委嘱書交付 5 委員自己紹介・職員紹介 6 会長選出 7 議事 (1) 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況 (2) 吉川市子どもの貧困対策推進計画に係る指標の実績 (3) 吉川市子どもの貧困対策推進計画に係る各取組の進捗について 8 その他 9 閉会 ※ すべて公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	資料1 吉川市児童福祉審議会について 資料2 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について 資料3 吉川市子どもの貧困対策推進計画に係る指標の実績について 資料4 吉川市子どもの貧困対策推進計画に係る各取組の進捗について
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	大澤委員、大月委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	資料の確認 1. 開会 2. あいさつ 子育て支援課長あいさつ 3. 吉川市児童福祉審議会について 事務局から吉川市児童福祉審議会について説明 4. 委嘱書交付 5. 委員自己紹介・職員紹介 6. 会長選出 事務局一任との意見があったため、会長として佐久間美穂委員を提案し、承認、選出された。 佐久間会長あいさつ
会長	7. 議事 (1) 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況 【関係資料】 資料2 第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について
事務局	(担当課から資料について説明) (質疑応答)
吉岡委員	No38 送迎保育事業について、送迎保育ステーションは実際どのように各園を結んで送迎しているのか
保育幼稚園課	送迎保育ステーションに保護者が園児を送り届け、ステーションから各園に園児を送り届けるというものである。
大月委員	No41 通学路等安全対策の推進について、関係各課への情報提供と

	<p>なっているが、その後の動きはどうなっているのか。市内には危険な場所が多く見られる。実際に対応することが大切なのではないか。</p>
<p>保育幼稚園課</p>	<p>道路管理者である道路公園課等と情報共有を図り、進捗状況や整備計画を確認する連絡会を設けている。当該連絡会で整備の優先順位や予算の確保等を話し合っているところである。</p>
<p>清水委員</p>	<p>障がい児や発達障がいを抱えた子どもとその保護者に対する支援について、発達障がいの子が増えていると感じており、良い支援だと思う。しかし、こども発達センターと小学校との連携が不足していると感じる。発達センターと小学校が長期スパンで子どもに対する連携を図ることは、子だけでなく保護者にとっても良いことだと思う。福祉と教育部門の連携は課題ではないかと考える。</p>
<p>障がい福祉課</p>	<p>令和3年度から保育所等訪問支援事業を開始したが、今後は小学校との連携についても検討を行っていきたい。</p>
<p>荒井委員</p>	<p>障がいを抱える子に対する支援について、療育が必要と思われる子を療育につなげることの難しさを感じる。</p>
<p>荒井委員</p>	<p>No 3 4 障がい児保育事業について、本事業は公立のみが対象か。支援が必要な子に対しては、適切に支援が受けられる体制を確保いただきたい。</p>
<p>保育幼稚園課</p>	<p>公立保育所は市が職員を確保し、子どもに適した支援体制をとっているが、民間保育所については、加配等について必要な申請をいただき、審査会を経て補助を行っているところである。幼稚園については管轄が県となっている関係から、詳細は把握していません。また、令和3年度から、特別な支援が必要だがどのように接すべきか等の保育所が抱える悩みについて、大月委員にも協力をいただき</p>

障がい福祉課	<p>ながら、巡回支援を開始したところである。</p> <p>障がい福祉課でも幼稚園や保育所から依頼を受け専門医が巡回支援を行っているので必要に応じて申請をいただきたい。</p>
大月委員	<p>市内の民間保育所で巡回支援を始めているが、一度の巡回で状況が改善することも経験している。大切なのは子どものせいにしないこと。教育者側には、関わり方次第で子どもは変わることを伝えている。ベースの教育力や保育力が上がれば、子ども一人一人にカスタマイズした特別な保育が無くとも、発達障がいと言われる子は減ると考えている。</p> <p>現計画の支援は、既に障がいを受容している保護者とその子どもに対するもので、そうでない保護者とその子どもに対しては支援が少ないように思う。大切なのは受容できていない又は認識できていない保護者とその子どもへのアウトリーチではないか。保育現場への巡回支援や、教育者、保育者の能力を高めることが効果的ではないかと思う。</p>
中村委員	<p>アウトリーチから徐々に保護者の受容を促す方法が取れば、事態が複雑化してから関係機関が関りを持つよりも、良好な親子関係が築けるのではないかと思う。</p>
松澤委員	<p>障がいを抱えていても、その子どもに対して教育機関も、市も一緒に寄り添うという姿勢が大切だと思う。</p>
大澤委員	<p>新型コロナウイルスが蔓延してからは、子どもを外で見る機会も減り、見守りについても難しくなっていると感じる。民生委員はどのような関りができるか日々考えている。核家族化が進み、祖父母や、近所の人との付き合いも希薄化し、子どもは頼れる場が少なくストレスも多いと思う。</p>

<p>会長</p>	<p>他に意見等なければ次の議事へ移らせていただく。</p> <p>(2) 吉川市子どもの貧困対策推進計画に係る指標の実績について</p> <p>(3) 吉川市子どもの貧困対策推進計画に係る各取組の進捗について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料3 吉川市子どもの貧困対策推進計画に係る指標の実績</p> <p>資料4 吉川市子どもの貧困対策推進計画に係る各取組の進捗</p>
<p>会長</p>	<p>(2) (3)は関連があるので一括して審議する。</p>
<p>事務局</p>	<p>(担当課から資料について説明)</p> <p>(質疑応答)</p>
<p>中村委員</p>	<p>子どもの貧困対策について、地域食堂を運営しているなかで感じることは、ご飯を食べられることと同じ位、人と人が繋がる場は大切であるということ。市内の地域食堂3カ所は吉川駅を起点に北側にあるため、南側にも立地できれば支援の幅が広がると考えている。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>資料3のNo3について、学習支援教室に参加した方の進学率は100パーセントとなっているが、継続した通学は出来ているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>進学後の追跡調査は行えていない。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>資料3のNo10について、住居確保給付受給者数が大幅に増加しているのは、新型コロナウイルスの影響か。</p>
<p>事務局</p>	<p>そのとおりである。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>資料4のNo2フッ化物歯面塗布事業の143名とは希望者の人数か。</p>

事務局	そのとおりである。
吉岡委員	学校ではフッ素うがいは実施しているか。
清水委員	実施している学校もある。
吉岡委員	海外ではフッ化物は6歳まで禁忌とされているので健康面が心配である。
松澤委員	新型コロナウイルス感染症対策として、保育所の歯磨きを実施しないという通知を把握しているが、このまま実施しないのか気になる。
大月委員	当園では歯磨きは実施していない。うがいについても、実施していない。厚生労働省も文部科学省も感染症の防止策としてうがいは勧めていない。フッ化物歯塗布については、本人の意思に任せるべきものとは思う。
荒井委員	当園では歯磨きを実施している。緊急事態宣言下においては実施しなかった。
大月委員	資料4のNo124について、職員、教員が子どもの変化に気づく目を養うとともに、必要な支援につなげられるということが重要であるのに実績がゼロとなっている。教育現場、保育現場が最も気づける場であるのだから力を入れるべき。前回は貧困の連鎖を断ち切るには教育が大切であることを述べた。非認知能力の向上が、貧困対策として有効であるという研究結果も出ている。目の前の実績を追い求めるより、教育に力を入れ、長期的な計画のもと、貧困対策を考えるべきではないか。
松澤委員	虐待通告に関する事例で、父母が喧嘩をしたという話を児童から聞

	<p>いたら、学校が即児童相談所に通告したという話を聞いたことがある。もう少し学校と保護者の信頼関係を築くべきではと思う。</p>
<p>松澤委員</p>	<p>資料4のNo68産前・産後サービスについて、コロナ禍で自宅に他人を招くことの心配や、どのような方が家に来てくれるのかわからないという不安で、利用を躊躇した経験があるので、そのあたりの不安を取り除ける周知があると良いと思う。</p>
<p>清水委員</p>	<p>地域資源や市を上手く活用できる術を学校関係者も知っておくべきではと思う。</p>
<p>中村委員</p>	<p>福祉の立場から見ると、教育の場とはつながり難いと感じるところがあるので、上手く連携できればと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局から何かあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後子どもの貧困対策の計画の見直しを図っていくなかで、今回のような意見も含め検討していきたい。</p>
	<p>8. その他</p> <p>児童福祉審議会の今後の予定について、令和3年度中の開催予定はない。令和4年度は、7月から8月、2月から3月頃開催予定である。日程については改めて委員の皆様にご連絡させていただく。</p> <p>9. 閉会</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和3年12月14日

署名委員 大澤 里子 自署

署名委員 大月 浩史 自署